

習得と活用の違いをはっきりと意識して

ハイライト：

- ・研究テーマを「習得」と「活用」に修正します。
- ・国語と算数での「習得」と「活用」とはどんなこと？
- ・「習得」と「活用」の授業の違いは何でしょう。
- ・安部先生の授業は、習得を重視しています。
- ・授業記録は、フレームワークで
- ・授業整理会は、次のように進めます。
- ・見通しをもって、準備しましょう。

研究テーマは、「習得」と「活用」

5月17日に行った提案授業での授業整理会では、研究テーマについて、講師の先生から次のようなご指導を受けました。

まず、研究テーマでは、「基礎的・基本的な知識・技能の定着・維持・活用を図る学習指導」に対して、①「定着・維持」の定義を明確にし、目標を共有化すること②「図る学習指導」の具体的な手だてを明確にし、具体的な実践がみえるようにすることということでした。

サブテーマでは、「チーム力を生かした2つのアプローチ形成による授業づくり」に対して、①研究テーマのめざす子ども像を実現するための手だてとして、方法が具体化されていない（鬼木先生）②研究テーマの具現化の直接的な手だてではないが、研究推進の新しいスタイルとしてはよい（山崎先生）ということでした。

講師の先生方のご指導にもあるように、めざす子ども像が曖昧であり、研究推進の方法をサブテーマに設定したため、国語と算数の授業における具体的な手だてを提示できていませんでした。

そこで、研究テーマについては、「定着」と「維持」の違いが曖昧なので、2つを合わせて「習得」として定義づけていきます。修正した研究テーマは、「基礎的・基本的な知識・技能の習得・活用を図る学習指導」となります。

サブテーマについては、前回提案のまま継続していきます。方法が具体化されていませんが、山崎先生のご指導にもあったように、研究の新しいスタイルとして、イノベーション（技術革新）を起こそうとしているのが、今年の久原小学校の研究になります。チームで新しいものを生み出していきます。

国語と算数での「習得」と「活用」とはどんなことでしょうか。

では、国語と算数における「基礎的・基本的な知識・技能の習得・活用」とは、どんなことになるのでしょうか。

「習得」の定義として、次のように具体化してみました。

- | | |
|----|---------------------------|
| 国語 | ・教材文を叙述に即して正しく読むこと |
| | ・自分の思いや考えを適切に書くこと |
| 算数 | ・既習の内容や追究方法を使って、問題を解決すること |

「活用」の定義としては、

- | | |
|----|---|
| 国語 | ・教材文での「 <u>読み</u> 」を、表現活動（書くこと）に生かし、「 <u>読み</u> 」が高まること |
| | ・表現活動（書くこと）を、教材文での「 <u>読み</u> 」に生かし、表現が高まること |
| 算数 | ・既習の内容や追究方法を使って、類似問題や発展問題を解決し、知識・技能、論理的思考力を高めること |

このような子どもを育てる授業をつくっていきましょう。

「習得」と「活用」の授業の違いは、何でしょう。

「習得」を重視した授業と「活用」を重視した授業では、具体的にどこが違うのでしょうか。その違いを曖昧にとらえていると「習得」の授業と「活用」の授業が同じような授業になってしまい、子どもたちの力を効果的かつ効率的に高めていくことができません。

「習得」を重視した授業を行うには、指導者が、何を、どう習得させるのかははっきりと意識しておくことが大切です。例えば、算数の学習で、「計算の意味を、図で説明させて習得させる」、「三角形の作図技能を、複数の図形を作図させて習得させる」となります。

はっきり意識できると、説明の時間や練習の時間を多く設定したり、支援の方法が変わったり、「習得」の授業ならではの違いが生まれてきます。

「活用」を重視した授業についても、「習得」と同様に、何を、どのように活用させるのかははっきりと意識しておくかなければなりません。このことが、「習得」の授業との違いをより具体的に生み出していくことにつながります。

「違い」は、1つだけではありません。これからの授業づくりを通して、久原小学校の「習得」と「活用」の授業モデルをつくっていきましょう。



習得・活用の授業
づくりは、指導者が
はっきりと意識す
ることが大切です。

安部先生の授業は、習得を重視しています。

6月7日に6年1組で授業研を行います。年度初めの提案では、今回から部研で行う予定でしたが、国語の提案授業の意味合いを兼ね、全研で実施し、授業後の整理会にも全職員で臨んでいきます。講師として、福岡教育事務所の木庭竜之介指導主事にご指導いただくことになっています。

今回の安部先生の授業は、基本的には、昨年度までの国語部会の実践を踏襲しているものです。国語部会では、説明文の授業を①単元を複数の教材で行うこと②単元を通して、書く活動を位置付けること③読みと表現が連続・

発展するように単元を構成することという3つの手だてで授業づくりを行っていました。単元で複数の「書く活動」を行うことで、段階的に書く力を高めていきます。また「書く活動」と連動して行う「読む活動」でも、段階的に読む力を高めていきます。つまり、読みと表現が相互に活用するととらえていました。

今回の授業は、「自分の作文を書くために読むという目的意識の明確化」「2つの説明文の比較から読みを高めること」を手だてに、「説明文の書き方を習得する」授業となっています。

授業記録は、フレームワークで。

今回の授業の指導案に添付されている授業記録用紙は、フレームワークになっています。これは、前回、山崎先生からご指導していただいたものです。

形式は、安部先生と検討して、先生方が記入しやすいように設定しています。授業参観者は、観点にそって、「実際の子ども様子」「要因」「改善点」を記入していき、

それをもとに、授業整理会に主体的に参加し、発言していきましょう。子どもの具体的な姿を見とっていくには、漫然と見るのではなく、課題意識をもって参観していきましょう。

用紙の形式は、今後、よりよく改善していきたいと考えています。また、この用紙は、整理会後に授業者に提出してください。



授業整理会は、次のように進めます。

司会（野口）記録（豊原）	於：会議室
1 講師紹介（校長）	15：10
2 協議	15：15～16：00
3 指導助言 木庭指導主事	16：00～16：40
4 謝辞・まとめ（教頭）	16：40

授業整理会の役割分担は、基本的に授業者の近接学年で行っていきます。記録者は、授業の評価、整理会での協議内容、指導内容をまとめ、通信として発行してください。（授業実施の週に）

見通しをもって、準備しましょう。

6月になると、授業研が毎週行われます。13日に柴田先生、20日に植田先生、27日に西田先生と、安部先生から国語の授業が4本続くこととなります。今回の安部先生の授業が全研となり、近接学年で授業について協議する時間が設定できていませんが、それぞれの先生方の授業づくりへのサポートをよろしくお願いいたします。日常の短い時間での会話の話題に挙げていただいても、授業者にとっては心強いものです。久原小学校の一番の主張点であるチームでの授業づくりには、みなさんの力が不可欠ですので、よろしくお願いいたします。

また、公開授業と並行して、参観指導を実施していきます。これは、6・7月に、1学期公開授業者以外の先生方が行っていくものです。6月13日、20日、27日の公開授業は部研で行いますので、当該学年以外は、協議の時間が設定できますが、授業力向上という視点から、自主的に日時や内容を申告していただきたいと思います。授業を行うにあたって、わからない点がありましたら、ご相談ください。

学習指導以外にも様々な行事が計画されていますので、見通しをもって、準備していきましょう。

公開授業で学んだ
ことを、日常の授業
に生かしていきま
しょう。

